

## 平成 27 年度第 4 回忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

開催日時 平成 28 年 2 月 12 日（金） 14:00～15:00

開催場所 忠岡町シビックセンター本館 3 階 研修室 1・2

### 出席者 【委員】

大阪府立大学客員研究員 博士	井上 馨（会長）
忠岡町自治会連合会 会長	高見 晃市
忠岡町防犯委員会 会長	花野 淳一（副会長）
忠岡町老人クラブ連合会 会長	田部 通夫
忠岡町子ども・子育て会議 会長	藤田 四郎
忠岡町 P T A 協議会 東忠岡小 P T A 副会長	森 佳子
忠岡町国際交流オーストラリア ・ピットウォーター市派遣者 代表	白石 大樹
忠岡町商工会 会長	萬野 俊史
忠岡町小売商連合会 会長	上田 協春
忠岡町農業委員会 会長	前川幸一郎
いずみの農業協同組合 営農経済部長	信貴 正憲
忠岡漁業組合 組合長	勝元伊一郎
忠岡町労働者協議会 議長	藤田 茂
(株)りそな銀行泉大津支店 支店長	斉脇幸史朗
(欠席委員)	
(社福) 忠岡町社会福祉協議会 会長	上ノ山幸子
ベル食品工業(株) 代表取締役	植田 末廣
(株)テレビ岸和田 取締役技術本部長	嶋崎 宏和

### 【忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部委員】

和田町長（本部長）、長屋教育長（副本部長）、原田町長公室長（副本部長）、  
柏原町長公室次長、前田住民部長、萬野健康福祉部長、藤田産業まちづくり部長、  
谷野建設課長、小林産業振興課長、長屋教育部長、土居教育部理事、  
武田子育て支援課長、議会事務局長、森野消防長

【事務局】 秘書政策課 奥村課長、石栗

【コンサルタント】 (株) かんこう 木戸脇、元氏

### 配布資料

・会議次第

#### 【会議資料】

- ・資料 1 パブリックコメント結果
- ・資料 2 忠岡町人口ビジョン
- ・資料 3 忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略

## 1. 開会

## 2. 会長挨拶

## 3. 町長挨拶

## 4. 「忠岡町人口ビジョン」について

## 5. 「忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

- ・事務局：資料1、2、3の説明（説明者：秘書政策課 奥村）
- ・井上会長：たくさんの追記があった。本筋はご議論いただいたままであるが、人口ビジョンに載っている部分を総合戦略に転載するなど、追記によりわかりやすくしたのだと理解した。ご意見、ご質問などいかががたい。
- ・高見委員：短時間でよくできたと感心している。子どもを増やすことが目的だと思うが、問題はこれをどう実現するかである。町当局や町長、自治会等いろいろな団体が、これに沿って協力していかなければならない。自治会も考えていきたい。
- ・井上会長：印刷した冊子は全戸配布するのか。
- ・事務局：全戸配布は考えていない。ホームページでデータをアップする予定である。印刷すると経費がかかるので、最近はそのような形にしている。
- ・高見委員：ホームページで全部見られるのか。
- ・事務局：全部アップする予定である。また、概要版もあわせてアップしようと考えている。
- ・井上会長：ホームページで全部見られるようになるのとのことであるが、一方で、あまりにページ数が多いので、全部を開いて見るかという問題点がある。配布用の概要版等はあるのか。
- ・事務局：広報等で、人口ビジョンと総合戦略を策定したことを案内する。そのなかでホームページのURLを示すことで対応したい。
- ・井上会長：皆さんのご意見を踏まえた内容になっていると思うが、質問等あれば、願います。
- ・白石委員：具体的な施策例が記載されているが、実施する予定がある施策や進めている施策が多いのか。
- ・事務局：既存の施策と28年度から新たに実施する施策とがある。たとえば、最後のページの「子育て世帯等への住宅取得の助成」「子育て世帯等への住宅リフォームの助成」「みなとマーケットの活性化」、P30の「国家資格取得のための受験料の助成」など新たに盛り込んだ施策もいくつかある。基本的には第5次総合計画に沿った既存施策を抽出し、新たに拡充していく分を追加している。
- ・白石委員：忠岡独自の英語教育のことが日経新聞に載っており、具体的に進んでいるのだと思った。他の分野でも具体的に実施していただければ、忠岡のPRになると思う。よろしく願います。
- ・事務局：おっしゃっていただいたように、P21に「忠岡町独自の英語教育方法(忠岡メソッド)の確立」を施策例としてあげている。
- ・白石委員：P27の右下の写真のキャプションに誤植がある。
- ・事務局：天然記念物が天園記念物となっている。修正する。

- ・井上委員長：白石委員からも高見委員と同様、実施が大事だという意見が出された。第5次総合計画が素晴らしいので、それをいかに具現化していくかということかと思う。  
森委員、女性の立場からどうか。
- ・森委員：子育てには安全に暮らしていける環境が必要である。忠岡町には、小さい子どもを連れて行く公園が少ない。公園の遊具の点検の話もあったが、1～2歳の子どもにあった遊具がない。親とともにいける公園や低年齢層の遊べる公園を増やしてほしい。
- ・建設課：町内の公園の全数点検を行い、危険な場所をチェックし、その対策は完了した。遊具については一般的に3歳から使えるものと6歳から使えるものがあるが、いまある遊具は概ねが6歳以上となっている。財政との関係もあるが、更新に際しては、3歳から使えるもの、乳幼児から使えるものにしていきたい。
- ・井上委員長：ご指摘に関し、問題点は把握しているとのこと。財政の問題もあるが、今後前向きに考えていくとのことである。
- ・勝元委員：忠岡漁港で、みなとマーケットを月1回第4日曜日に実施してきた。4年目になるが、今年からは、年に3回、第5日曜に開催し、カーニバルを大きくすることを決定した。小さい子どもさんからおじいちゃん、おばあちゃんまで皆さんが来られるようにと考えている。
- ・産業振興課：これまで、漁港の限られた人数で実施してもらってきたが、開催日が他の行事と重なり、行きたい人が参加できない状況も発生していた。年に3回、5回目の日曜日があるときに実施するという考えはわかりやすくよいと思う。予算についても、これまでより上乗せすることを考えている。若者向けに音楽活動をしている人に来てもらったり、バーベキューコーナーを設置したり、ご家族が楽しみ、ふれあえるようなイベントを開催できればと思う。産業振興課も共催でお手伝いしたい。
- ・井上委員長：勝元委員からは、「我々がどうする」という具体的な取組みをご提示いただき、役場もそれを応援するということである。以前、この会議はそういった方向をめざしているのではないかというご意見があったが、それに沿ったご発言である。
- ・萬野委員：人口ビジョンP26の就労人口をみると、平成7年をピークに、平成22年までに、働き手が2,000人以上減っている。それに比べ、P8で示している人口はそれほど減っていない。これは重要な問題であり、対策を考える必要がある。戦略のP29に具体的施策があがっているが、もっと地場産業や町内の企業に手を貸し、手厚く支援していただくことを、商工会としてお願いしたい。
- ・産業振興課：データを見て、改めておっしゃる通りだと感じた。本町も商工会の力を借りながら、産業の発展、商工の振興について考えているところである。平成27年度には、国の認定を受け、創業支援を行った。国に出した計画では創業者7名としていたが、セミナーや支援を受けた中で、すでに8件程度が創業した。町域の方に向けた施策であり、忠岡町内での創業だけではなく、町内での操業は4～5件ではあるが、そういったところを地道にフォローしていきたい。また、町財政が厳しいところであるが、次年度の予算では、「安定した雇用を育むまち」ということで、町内事業者へのフォローもしていく。町内居住者を正規雇用した場合の助成、就労に有利な技術を獲得する場合の国家資格受験料や技能開発訓練費の助成等を地道に継続していくことで、就労人口を上向きにしていきたい。
- ・井上委員長：雇用人口が減り続けているので産業の振興をめざせないかという商工会からの意見に対

し、産業振興課から実績と取組みの説明があった。目標は同じであるので、これからも意見の交換をしながら進めていってほしい。

- ・ 萬野委員：昼ご飯を食べに行くところがないような状態では、まちが元気ではないと思う。食事をするとところも飲みに行くところも減っている。なぜかという、若い人の昼間の労働人口が少ないからではないか。急には難しいと思うが、若い人を呼び込めるような施策が必要である。いまはインターネットもあるので大阪市内で働かなければいけないということはない。関連施設ができれば、閑空も近いので忠岡から世界に羽ばたこうという夢も持てるのではないか。また、泉佐野はふるさと納税が 10 億円と聞いた。忠岡町も地場産業の振興のため、毛布やニットなどをふるさと納税のお礼の品として、名前を売ったらよいと思う。
- ・ 井上委員長：忠岡町から大リーガーが誕生した。人の力が重要であり、それを皆が応援する小さいけれどもすてきな町をめざすのがよいのではないか。
- ・ 藤田（茂）委員：待機児童について、0 人を継続することになっているが、働きたい女性がすぐに保育所に預けられるような体制が今後も続けられるのか。
- ・ 長屋副本部町：これまで努力してきており、今後も頑張っていきたい。
- ・ 藤田（四）委員：学校から帰ったときに両親がいない子どもが公民館に行けるような仕組みがあるとよい。社会福祉協議会と役場が連携し、社会福祉協議会の地区委員が当番で対応し、高齢者が子どもとふれあうようにすればよい。親も助かるし、そういうあたたかい話が伝われば、人口も増えるのではないか。空き家を借りて利用してもよいと思う。その辺の施策を推し進めてほしい。
- ・ 井上会長：国立社会保障・人口問題研究所の前所長から同じような意見を聞いた。高齢者が増えるなか、小規模多機能施設がまちまちに必要であり、高齢者と若い人が交流できればよい、空き家を活用することも考えられる、という話であった。自治体に任せるのではなく、みんなで考えていく必要がある。
- ・ 勝元委員：忠岡にはなぜ高校や大学がないのか。高校や大学が忠岡にあれば、人口が増えていく。そういう方向も考えていったらよいと思う。
- ・ 井上会長：規模の問題もあると思うが、来たいというところがあれば受け入れればよい。先だって、茨木市で学会があったのだが、サッポロビール跡地に立命館の学舎ができています。サッポロビールのときは産業誘致であったが、いまは文化を増やす発想で大学を誘致したのだと思う。
- ・ 井上会長：ご意見がなければ、これで会議を閉じたい。  
委員の皆様には4回の会議でご審議いただき、人口ビジョン、総合戦略が策定された。文化の高い町だという感じを持った。忠岡町のみなさんが戦略に基づいて、子育て世代が魅力を感じるようなまちづくりを展開し、忠岡町がより一層、活力のあるまちになることを願っている。ありがとうございました。

## 6. その他

特になし

## 7. 閉会

以上